

政策研究レポート

ウィズコロナ時代における東海地方の旅行意識調査 【2021年夏】

～旅行行動は依然控える傾向にあり、密を避け、安全・安心を求め、近場観光を選択する傾向。お盆の旅行は、コロナ感染の状況を見て検討と取りやめが大半～

名古屋研究開発部 上席主任研究員 田中 三文

感染拡大が依然続く新型コロナ(以下コロナ)の影響により、不要不急の外出や県境越えの移動自粛等が求められ、市民の旅行行動は抑制されています。コロナの感染拡大は昨年3月以降収束することなく続いており、旅行者、受入側ともに感染対策を意識したウィズコロナ時代の新しい旅行のスタイルへと変化しました。本調査は、コロナの感染拡大による東海地方に暮らす人々の旅行に対する意識変化を把握するため、2021年7月30日～8月3日の5日間、インターネット調査会社の登録モニターより東海地方(愛知県、岐阜県、三重県、静岡県)の2,400サンプルから回答を得て、集計分析しました。なお、本調査は昨年12月にも実施しており、前回調査との比較も行いました。

(前回調査:https://www.murc.jp/report/rc/policy_research/politics/seiken_201221/)

【結果概要】

I. コロナ感染拡大による旅行意識の変化

1. 旅行意識の変化は、「大きく変化」が37.1%、「やや変化」が35.9%
2. 旅行行動の意識変化としては、「にぎわう観光地や混雑を避ける」が71.2%と最も顕著
3. 旅行訪問先選択で重視することのうち「訪問先のコロナの感染状況」が76.7%と最多

II. コロナ感染拡大後の旅行実態

1. 日帰り旅行については、「大きく減少」が55.5%、「やや減少」が25.0%
2. 宿泊旅行については、「大きく減少」が62.8%、「やや減少」が18.7%
3. 昨夏との比較では、日帰り、宿泊旅行ともに大幅に減少

III. お盆の旅行・帰省旅行の予定

1. お盆の旅行は「コロナに関わらず予定」が14.0%、「コロナに不安があり取りやめ」が23.8%、「コロナの状況を見て再検討」と「コロナの状況を見て検討する」の合計が62.3%と中止・様子見が大半
2. お盆の帰省旅行は「コロナに関わらず予定」が27.6%、「コロナに不安があり取りやめ」が23.8%、「コロナの状況を見て再検討」と「コロナの状況を見て検討する」の合計が48.6%と、中止・様子見が大半

IV. 東京オリ・パラ開催時の旅行、ワクチン接種の有無による旅行

1. 東京オリンピック・パラリンピック開催時の旅行については、「テレビ観戦をしたくて旅行を控える」が15.3%
2. ワクチン接種の有無による旅行については、「ワクチン接種を終えているが旅行は控える」が16.4%

V. ウィズコロナ時代の今後の旅行予定・意向

1. 旅行形態別旅行の実施意向の時期については、まずは「近場の日帰り旅行」から
2. ウィズコロナ時代にしたい旅行のタイプは「ご当地グルメ」「密を避けた自然のなかで癒し・リラックス」が上位

I. コロナ感染拡大後の旅行意識の変化

1. 旅行意識の変化は、「大きく変化」が 37.1%、「やや変化」が 35.9%

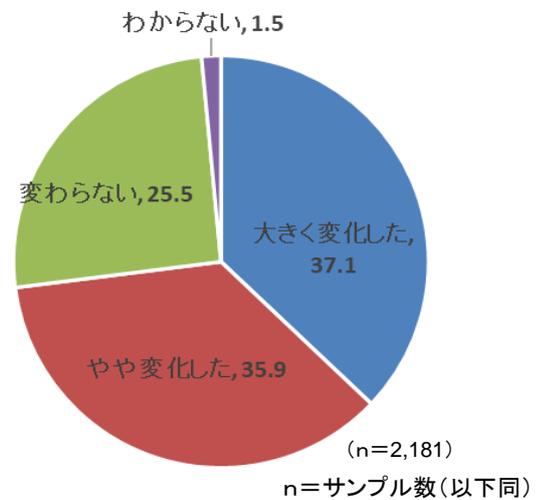
コロナ感染拡大後(2020年3月以降)における旅行の意識変化について聞いたところ、「大きく変化した」が 37.1%、「やや変化した」が 35.9%となっており、これらを合わせた「変化した」と回答した合計は 73.0%となっている。

前回調査(2020年12月、以下同)においては、71.9%の人が「変化した」と回答しており、ほぼ同様の結果となった。

(※サンプル対象からは旅行をしない人を除く)

(※四捨五入の関係で合計が 100%にならないこともある。以下同)

【コロナ感染拡大後の旅行意識の変化】



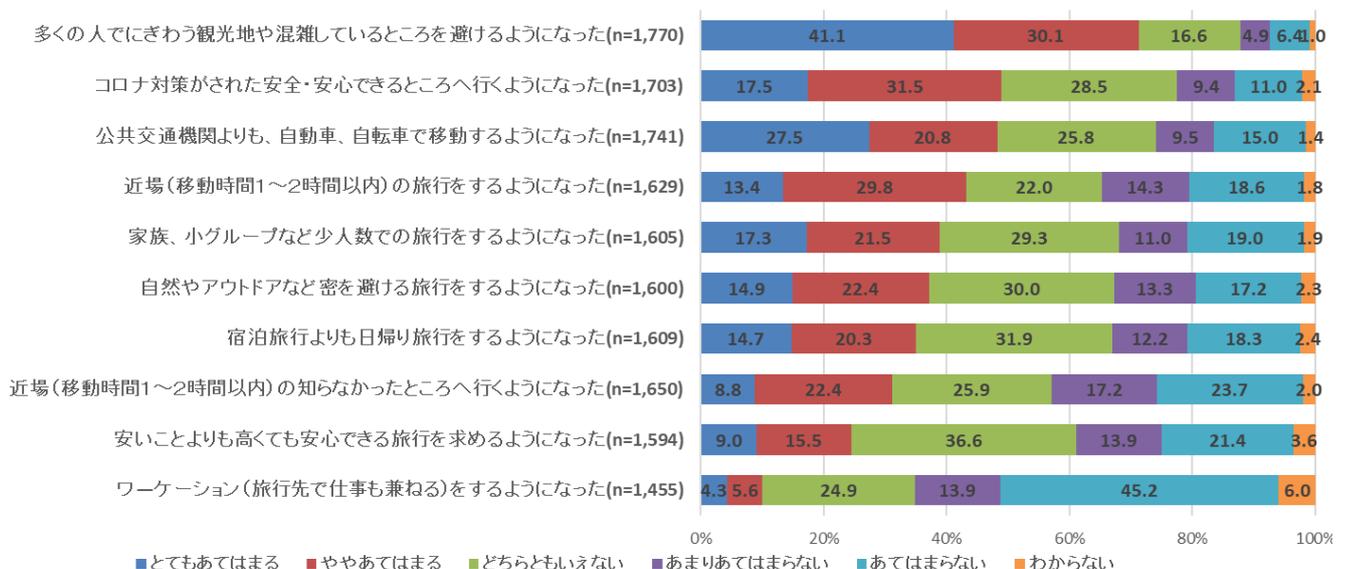
2. 旅行に対する意識や行動の変化としては、「にぎわう観光地や混雑を避ける」が 71.2%と最も顕著

ウィズコロナ時代における旅行に対する意識や行動の変化について聞いたところ、「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」を足した「あてはまる」の合計では、「多くの人でにぎわう観光地や混雑しているところを避ける」(71.2%)が最も多く、次いで「安全・安心できるところへ行く」(49.0%)、「公共交通よりも自動車、自転車で移動」(48.3%)が半数近くとなっており、密を避け、安全・安心なところ、自動車・自転車で行くといった意識であることがわかった。

前回調査ともほぼ同じ傾向、比率であるが、「安全・安心なところ」が3番目から2番目となっている点のみ変化があった。

(※サンプル対象からは各旅行行動をしない人を除く)

【コロナ感染拡大後の旅行行動の変化】



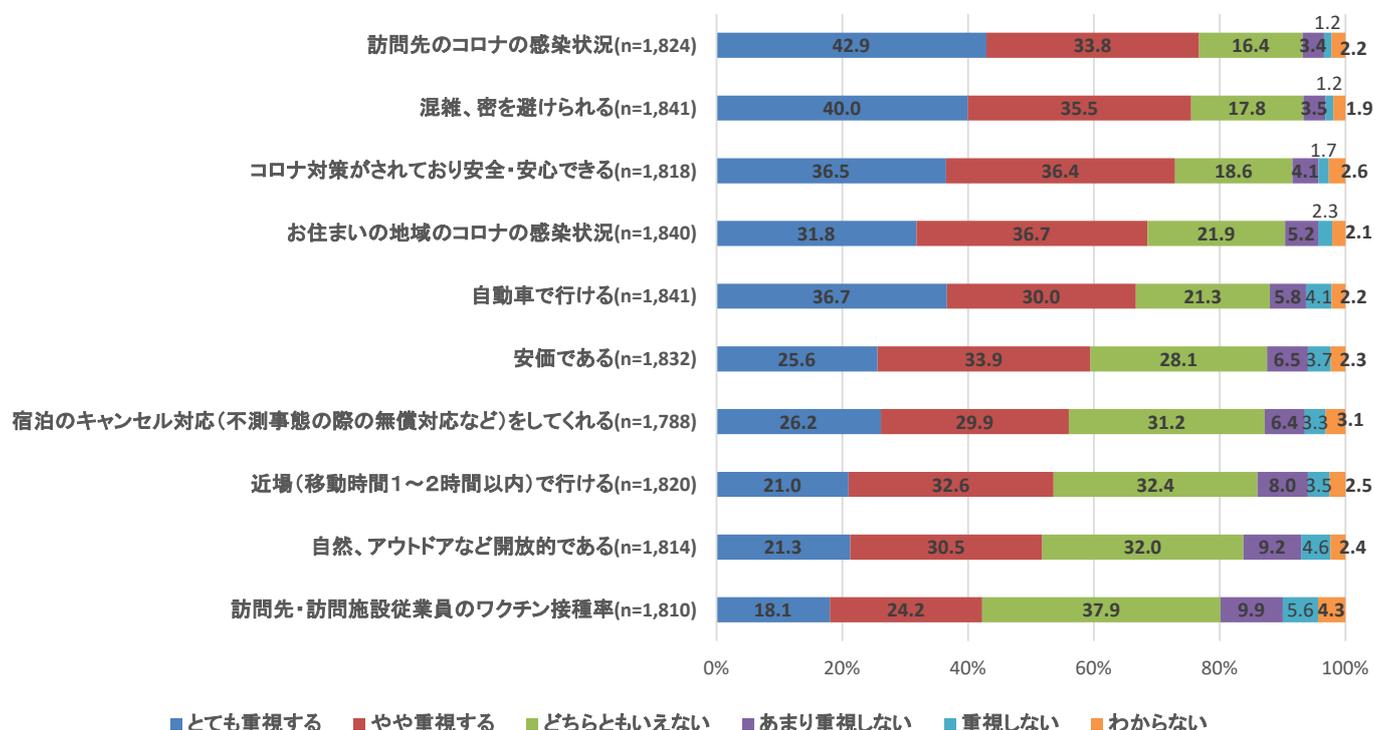
(※ n=各項目のタイプの旅行行動をしない人を除く)

3. 旅行訪問先選択、「訪問先のコロナの感染状況」を重視は76.7%

ウィズコロナ時代における旅行訪問先選択で重視することについて聞いたところ、「とても重視する」と「やや重視する」を足した「重視する」の合計では、「訪問先のコロナの感染状況」(76.7%)が最も多く、次いで「混雑、密を避けられる」(75.5%)、「コロナ対策がされており安全・安心できる」(72.9%)と、この3点を重視する割合が7割を超えている。「とても重視する」で最も多かったのは「訪問先のコロナの感染状況」の42.9%であり、「お住まいの地域のコロナの感染状況」の31.8%よりも高く、居住地よりも訪問先の感染状況をより重視することがわかった。前回調査との比較においては、各項目ともに「重視する」率が減少し、「重視しない」率が増加している点があげられる。これは、コロナ感染拡大から約1年半を経過し、警戒感がやや緩んでいるものと推察される。また、今回、新たに設問に加えた「訪問先・訪問施設従業員のワクチン接種率」は、最も「重視する」率が低かった。

(※サンプル対象からはそれぞれの設問の旅行をしない人を除く)

【コロナ感染拡大後の旅行訪問先選択で重視すること】



(※ n=それぞれの設問の旅行をしない人を除く)

Ⅱ. コロナ感染拡大後の旅行実態

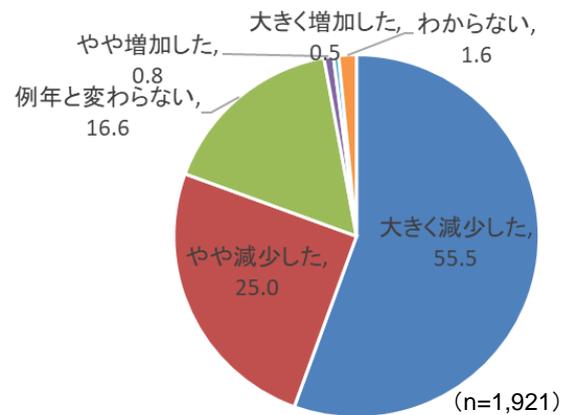
1. 日帰り旅行は、「大きく減少」が55.5%、「やや減少」が25.0%

コロナ感染拡大後における日帰り旅行の実施機会の変化について、コロナ前との比較で聞いたところ、「大きく減少した」が55.5%、「やや減少した」が25.0%となっており、減少した人は合計で80.5%であった。前回調査では、減少した人の合計が76.2%であったことから、減少した人の率が高まっていることがわかる。

一方、「大きく増加した」は0.5%、「やや増加した」は0.8%で、増加した人は合計でわずかに1.3%であった。

(※サンプル対象は日帰り旅行をしない人を除く)

【新型コロナ感染拡大後の旅行実態(日帰り旅行)】



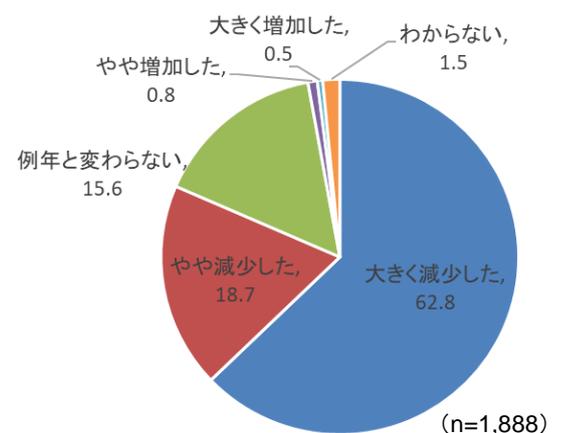
2. 宿泊旅行は、「大きく減少」が62.8%、「やや減少」が18.7%

コロナ感染拡大後における宿泊旅行の実施機会の変化について聞いたところ、「大きく減少した」が62.8%、「やや減少した」が18.7%となっており、減少した人は合計で81.5%であった。前回調査では、減少した人の合計が76.3%であったことから、減少した人の率が高まっていることがわかる。

一方「大きく増加した」は0.5%、「やや増加した」は0.8%で、増加した人は合計でわずかに1.3%であった。

(※サンプル対象は宿泊旅行をしない人を除く)

【新型コロナ感染拡大後の旅行実態(宿泊旅行)】



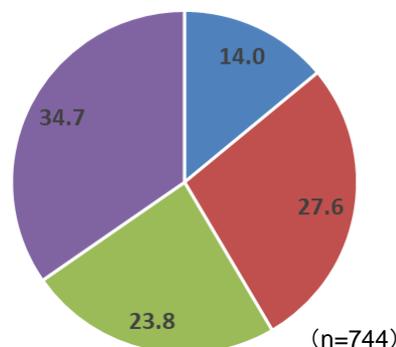
Ⅲ. お盆の旅行・帰省旅行の予定

1. お盆の旅行は「コロナに関わらず予定」が 14.0%、「コロナに不安があり取りやめ」が 23.8%、「コロナの状況を見て再検討」と「コロナの状況を見て検討する」の合計が 62.3%

お盆の旅行を予定、あるいは検討している人にお盆の実際の旅行予定について聞いたところ、「コロナの感染状況に関わらず旅行する予定」が 14.0%で、逆に「旅行を予定していたが、コロナの感染状況に不安があり旅行はしない」が 23.8%となっている。また、「旅行する予定であるが、コロナの感染状況を見ながら再検討する」が 27.6%、「旅行の予定はしていないが、コロナの感染状況を見て旅行を検討する」が 34.7%となっており、コロナの感染状況を見ながら検討する人の合計が 62.3%と約 6 割いることがわかった。

(※サンプル対象からはお盆休みがない人、コロナに関わらず旅行をしない人を除く)

【お盆の旅行の予定】



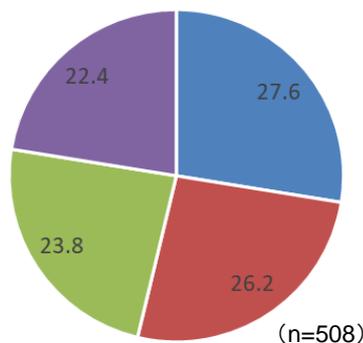
- コロナの感染状況に関わらず旅行する予定である
- 旅行する予定であるが、コロナの感染状況を見ながら再検討する
- 旅行を予定していたが、コロナの感染状況に不安があり旅行はしない
- 旅行の予定はしていないが、コロナの感染状況を見て旅行を検討する

2. お盆の帰省旅行は「コロナに関わらず予定」が 27.6%、「コロナに不安があり取りやめ」が 23.8%、コロナの状況を見ながら検討する人の合計は 48.6%

帰省先があり、帰省旅行をする可能性のある人にお盆の帰省旅行予定について聞いたところ、「コロナの感染状況に関わらず旅行する予定」が 27.6%で、逆に「帰省旅行を予定していたが、コロナの感染状況に不安があり帰省旅行はしない」が 23.8%となっている。また、「帰省旅行する予定であるが、コロナの感染状況を見ながら再検討する」が 26.2%、「帰省旅行の予定はしていないが、コロナの感染状況を見て旅行を検討する」が 22.4%となっており、コロナの感染状況を見ながら検討する人の合計が 48.6%と半数以下となっている。

(※サンプル対象からは帰省先のない人及びコロナに関わらず帰省旅行をしない人を除く)

【お盆の帰省旅行の予定】



- コロナの感染状況に関わらず帰省旅行する予定である
- 帰省旅行する予定であるが、コロナの感染状況を見ながら再検討する
- 帰省旅行を予定していたが、コロナの感染状況に不安があり帰省旅行はしない
- 帰省旅行の予定はしていないが、コロナの感染状況を見て帰省旅行を検討する

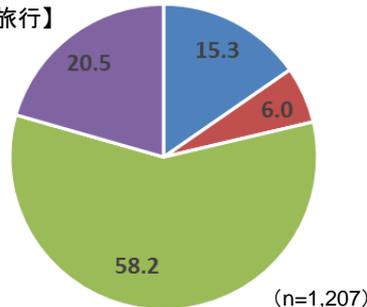
IV. 東京オリ・パラ開催時の旅行、ワクチン接種の有無による旅行

1. 東京オリンピック・パラリンピック開催時の旅行については、「テレビ観戦をしたく旅行を控えている」が15.3%、「テレビ観戦関係なく旅行を控えている」が58.2%と、旅行を控える人が約7割

東京オリンピック・パラリンピック開催時の旅行について聞いたところ、「オリ・パラのテレビ観戦関係なく旅行を控えている」人が最も多く58.2%、「オリ・パラのテレビ観戦をしたく旅行を控えている」人が15.3%で、旅行を控えている人が約7割を占めている。一方、「オリ・パラのテレビ観戦をしたいが旅行はしている」人は6.0%、「オリ・パラのテレビ観戦は関係なく旅行はしている」人は20.5%と、約3割の人は東京オリ・パラに関係なく旅行をしていることがわかった。

(※サンプル対象からは東京オリンピック・パラリンピック期間中にそもそも旅行をしない人を除く)

【東京オリンピック・パラリンピック開催時の旅行】



- 東京オリンピック・パラリンピックのテレビ観戦をしたく、普段より旅行は控えている
- 東京オリンピック・パラリンピックのテレビ観戦をしたいが、旅行はしている
- 東京オリンピック・パラリンピックのテレビ観戦は関係なく、普段より旅行は控えている
- 東京オリンピック・パラリンピックのテレビ観戦は関係なく、旅行はしている

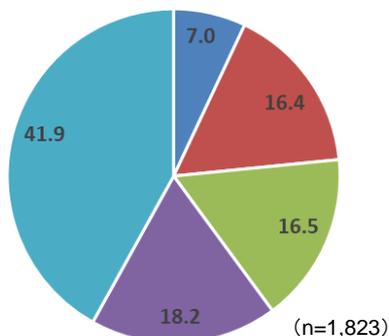
2. ワクチン接種の有無による旅行については、「ワクチン接種を終えているが旅行は控える」が16.4%、「ワクチン接種を終えていないが旅行は控える」が41.9%と、旅行を控える人が約6割

ワクチン接種(2回)の有無による旅行への意向について聞いたところ、「ワクチン接種を終えていないが旅行は控える」人が最も多く41.9%、「ワクチン接種を終えているが旅行は控える」人が16.4%と、ワクチン接種の有無に関係なく旅行を控える人の合計は58.3%であった。一方、「ワクチン接種を終えており、旅行をする・したい」人は、わずかに7.0%、ワクチン接種を終えている人全体のなかでも、30.0%にとどまった。

年代別に見ると、60代以上のワクチン接種率が高いなかで、60代以上では、「ワクチン接種を終えており旅行をする・したい」人が16.5%、「ワクチン接種を終えているが旅行は控える」人が44.4%となっており、60代以上のワクチン接種を終えている人のなかでも旅行したい人は27.1%にとどまった。

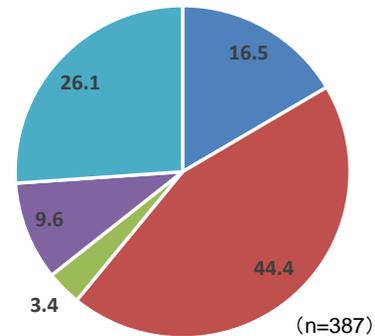
(※サンプル対象からはそもそも旅行に関心がない人を除く)

【ワクチン接種の有無における旅行】(全体)



- ワクチン接種(2回)を終えており、旅行をする・したい
- ワクチン接種(2回)を終えたが、コロナ収束まで旅行は控える
- ワクチン接種(2回)を終えていないが、接種を終えていなくても旅行をする・したい
- ワクチン接種(2回)を終えていないが、接種を終えたら旅行をする・したい
- ワクチン接種(2回)を終えていないし、終えてもコロナ収束まで旅行は控える

【ワクチン接種の有無における旅行】(60代以上)



- ワクチン接種(2回)を終えており、旅行をする・したい
- ワクチン接種(2回)を終えたが、コロナ収束まで旅行は控える
- ワクチン接種(2回)を終えていないが、接種を終えていなくても旅行をする・したい
- ワクチン接種(2回)を終えていないが、接種を終えたら旅行をする・したい
- ワクチン接種(2回)を終えていないし、終えてもコロナ収束まで旅行は控える

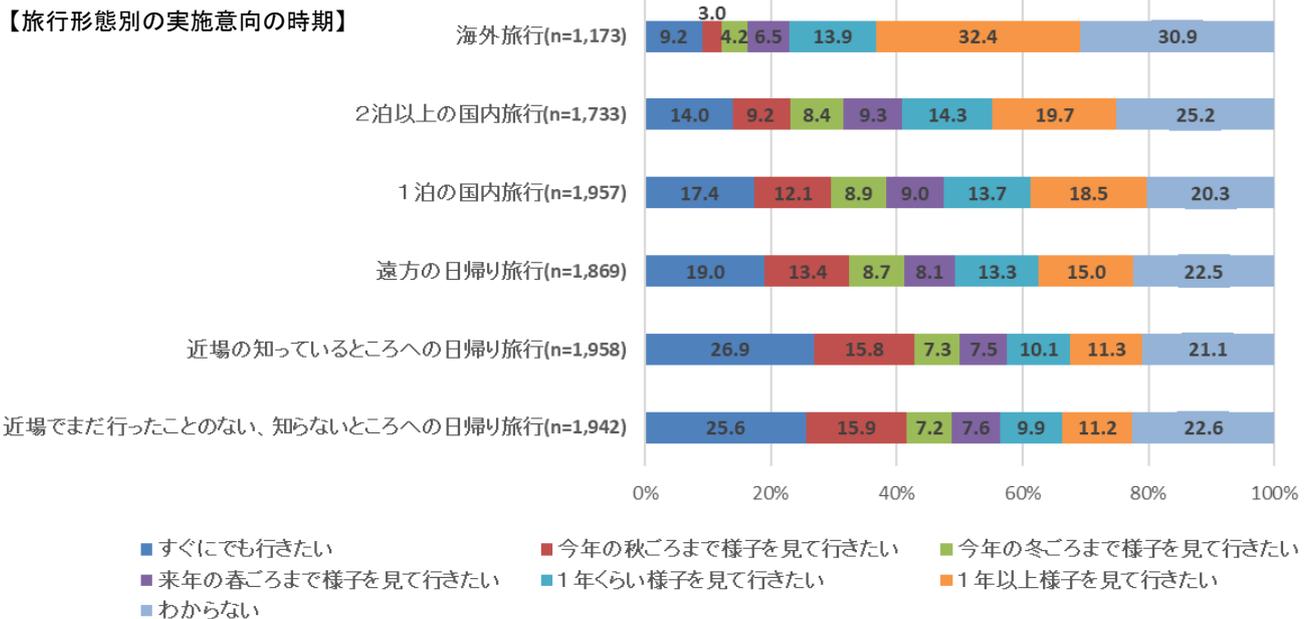
V. ウィズコロナ時代の今後の旅行予定・意向

1. 旅行形態別の実施意向時期については、まずは「近場の日帰り旅行」から

旅行形態別に実施意向時期を聞いたところ、「すぐにでも行きたい」という回答が多かったのは、「近場の知っているところへの日帰り旅行」(26.9%)、「近場でまだ行ったことのない、知らないところへの日帰り旅行」(25.6%)だった。前回調査でもほぼ同様の結果であったが、各旅行タイプともに「すぐにでも行きたい」人の率が増加している。

一方、海外旅行においては、「1年以上様子を見て行きたい」とする人(32.4%)が最も多くなっている。

(※サンプル対象からは各タイプの旅行をしない人を除く)

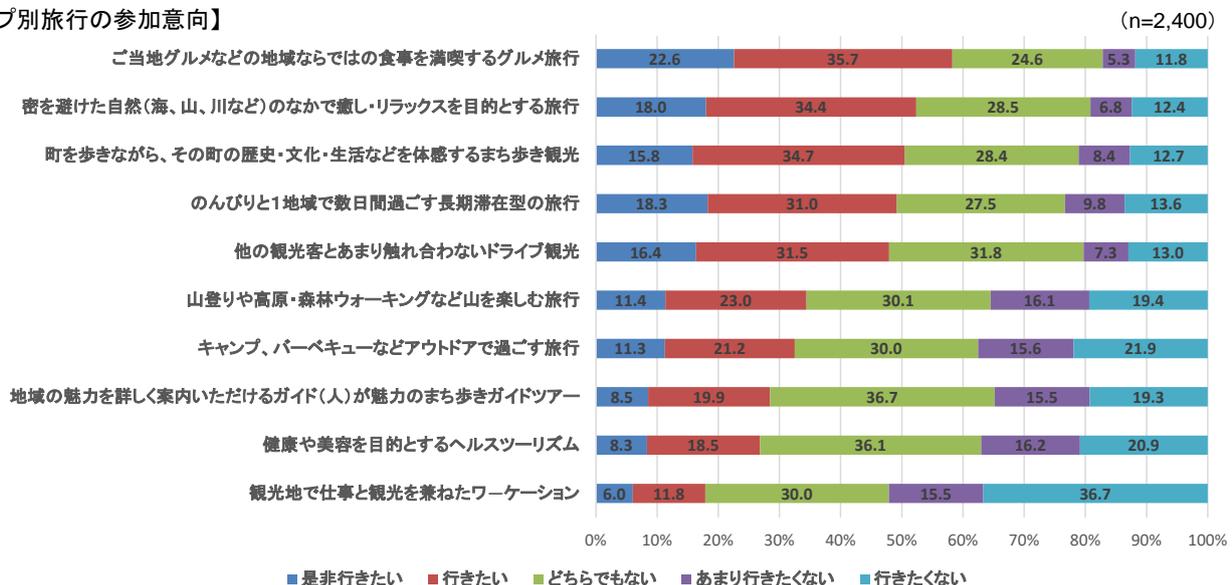


2. ウィズコロナ時代にしたい旅行のタイプは「ご当地グルメ」「密を避けた自然のなかで癒し・リラックス」「まち歩き観光」が上位

10のタイプ別旅行を選出して、ウィズコロナ時代にしたい旅行について聞いたところ、「是非行きたい」とする強い意向については、「ご当地グルメ旅行」が22.6%と最も多い結果となった。また、「密を避けた自然のなかで癒し・リラックスを目的とする旅行」、「まち歩き観光」は、「是非行きたい」と「行きたい」の合計が50%を超えた。

(※前回調査で項目に入っていた「温泉旅行」は今回調査からは対象外とした)

【タイプ別旅行の参加意向】



【調査概要】

- 調査実施日: 2021年7月30日～8月3日
- 調査手法: インターネットアンケート。インターネット調査会社の登録モニターより東海地方(愛知県、岐阜県、三重県、静岡県)で2,400サンプルからの回答を得て、分析。
- サンプル内訳: 愛知県1,200(名古屋市、名古屋市を除く尾張、西三河、東三河各300)、岐阜県300、三重県300、静岡県600(西部、東部各300)
性別は各地域で男女均等、年代は20代、30代、40代、50代、60代以上均等(一部不足年代は近い年代で補填)において実施しました。
- 調査主体: 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) ■ 調査協力: (株)クロス・マーケティング

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所: 三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。